

上越交響楽団。

第56回定期演奏会

会場 リージョンプラザ上越コンサートホール

日時

2005年3月27日(日)

■午後1:30開場 ■午後2:00開演

指揮 吉井 俊哉

主催 上越交響楽団

Verdi
1813~1901

Bizet
1838~1875

Beethoven
1770~1827



ジュゼッペ・ヴェルディ 歌劇「運命の力」序曲

Giuseppe Verdi
Overture from
"La Forza del Destino"



18世紀末、スペインとイタリアに起こった話、ドン・アルバーロはカラトバ侯爵の娘レオノーラと駆け落ちしようとしたが、侯爵に見つかり激しい争いの末にアルバーロは誤って侯爵を討ててしまう。レオノーラの兄ドン・カルロは復讐を企てるが、かえってアルバーロに刺され、止めに入ったレオノーラも刺されてしまう。結局アルバーロも絶望から自害すると言う悲劇。

序曲は突然金管群が運命のモチーフを提示することで始まる。これはアルバーロがもたらした無情な運命を暗示している。続いて弦楽器による短い上向音形の繰り返しによるモチーフで醜い争いを表しながら展開する。

中間部はレオノーラへの愛のテーマが奏でられるが、それも争いに断ち切れ、全員が息途絶える悲劇的な終末を迎える。

ジョルジュ・ビゼー 歌劇「カルメン」 第1組曲・第2組曲より

Georges Bizet
Carmen Suite Nos.1&2



ビゼーの代表作であると同時にフランスオペラの最高傑作として音楽ファンから広く親しまれているが、物語があまりにも血なまぐさく現実的なので、1875年に初演された時には決して成功ではなかった。しかし劇的效果に富み、かつスペイン情緒豊かなこのオペラは間もなく人々から理解されるようになり、やがては全世界を征服するのである。

原作はフランス・ロマン派のメリメの小説で、ビゼーが親しくしていたアレヴィとメイヤックが共同で台本を製作し、4幕物のオペラにまとめた。物語は1820年代のスペインのセビリヤを舞台に、タバコ工場の妖艶なジプシー女カルメンをめくって、竜騎兵伍長のドン・ホセと闘牛士エスカミーリオとの三角関係を扱った恋物語である。

本日は第1および第2組曲から次のように抜粋した。

第1組曲

第1曲●前奏曲(第1幕への前奏曲)～アラゴネーズ(第4幕への前奏曲)

陰惨な結末を暗示する運命のモチーフから始まり、続いて演奏されるアラゴネーズでは、3拍子のリズムの上にスペインのアラゴン地方の舞曲から引用した旋律がオーボエで奏される。

第2曲●間奏曲(第3幕への間奏曲)

元来「アルルの女」のための曲だが、後にカルメンの3幕に転用された。アルペジオに乗ったフルートの旋律は大変有名である。

第5曲●闘牛士(第1幕への前奏曲)

開幕に演奏される華やかな曲であり、闘牛士の行進の旋律が中心になっている。

第2組曲

第2曲●ハバネラ(第1幕より)

カルメンのアリアの旋律をもとにした曲で、実にスペイン情緒豊かな魅力的な音楽である。

第3曲●夜想曲(第3幕のミカエラのアリア)

3幕でミカエラの歌う曲で、ホルンの牧歌的な前奏の後、抒情的な旋律が奏される。

第4曲●闘牛士の歌(第2幕より)

2幕でエスカミーリオ登場の際に歌われる名曲で、闘牛士の心意気を表す勇壮な曲である。

第5曲●衛兵の交代(第1幕の通りの子供たちの合唱より)

1幕で衛兵の交代の際、衛兵の列についてきた子供たちが合唱する場面の曲で、ユーモラスな行進曲である。

第6曲●ジプシーの踊り(第2幕のジプシーの歌より)

2幕においてカルメンが酒場で歌い踊る時の音楽で、全幕を通して最もスペイン的で熱狂的な音楽である。

休憩

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン 交響曲第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

Ludwig van Beethoven
Symphony No.3 E flat major, Op.55
"Eroica"



「英雄」と命名する交響曲が生まれるきっかけを作ったのは、1798年にフランス大使としてウィーンに駐在していたベルナドット将軍と言われている。ナポレオンのイタリア遠征で活躍したこの将軍は、ウィーン滞在中に随員であったヴァイオリン奏者のクロイツェルと共にベートーヴェンと親交を結び、ぜひナポレオンに新作を献呈するよう勧めた。当時ベートーヴェンは新時代の英雄に強く惹かれていたため、自身の才能を評価してくれる将軍の言葉に共感した。

しかし、本格的に作曲に着手したのは有名なハイリゲンシュタットの遺書を書いた後の、1803年になってからで、結局その構想を5年間もあたためていたことになる。この間、1800年には第1交響曲、1802年には第2交響曲を書き上げていたが、「英雄」はそれまでの作品と比較にならないほど、強く充実した個性を示している。と同時に、この時間の経過は次のような有名なエピソードを生むことになった。

1804年にこの交響曲を完成したベートーヴェンは、フランス大使を通じてナポレオンに贈るつもりで楽譜の表紙に「ボナパルト」と記した。ところがその頃ナポレオンが皇帝に即位したことから、「あの男も所詮は俗人に過ぎず、自身の野心のために人権を踏みしり専制君主になることだろう」とベートーヴェンは嘆き、表紙を破り棄てたと伝えられている。そして1806年にウィーン美術工芸社から出版される際に、表紙にはイタリア語で「シンフォニア・エロイカ、ある英雄の思い出のために」と添えられていた。

第1楽章:アレグロ・コン・プリオ 変ホ長調 3/4拍子 ソナタ形式

第2楽章:「葬送行進曲」アダージョ・アツサイ ハ短調 2/4拍子 3部形式

第3楽章:アレグロ・ヴィヴァーチェ 変ホ長調 3/4拍子 スケルツォ

第4楽章:アレグロ・モルト 変ホ長調 2/4拍子 変奏曲形式